

Shake Hands 常滑国際交流協会 第 132 号 2022 年 11 月 4 日発行

〒479-0837 常滑市新開町 5-58 常滑商工会議所内 電話・FAX：0569-34-4797

メール：tia@japan-net.ne.jp URL：<https://www.japan-net.ne.jp/~tia/>



2022 年度 第 3 期 英会話講習のお知らせ

常滑国際交流協会では、私達に一番身近な外国語である英語を使って国際交流を行うことを目指して「英会話講習」を実施しています。下記により 2022 年度 第 3 期の受講者を募集します。
記

日程：毎回水曜日、(全 10 回)

2023 年 1 月 18 日、1 月 25 日、2 月 1 日、2 月 8 日、2 月 15 日、
2 月 22 日、3 月 1 日、3 月 8 日、3 月 15 日、3 月 22

日時 間：午前 10 時～12 時

場 所：とこなめ陶の森資料館 2 階 講座室

講 師：(H. E. ART 英会話) Jason Ford 氏 他

募集人員：24 名 (定員になり次第締め切ります。)

) 参加費：10,000 円

テキスト：新規に第 3 期から受講の場合は別にテキスト代が必要です。

* 常滑国際交流協会の個人会員の年会費は 2,000 円です。まだご入会いただいていない方はぜひこの機会にご入会下さいますようお願い申し上げます。

〒479-0837 常滑市新開町 5-58 常滑商工会議所内 [常滑国際交流協会](#)

(事務局の開設は火・水・木曜日の午後 1 時～4 時です。)

電話・FAX 0569-34-4797 メールアドレス tia@japan-net.ne.jp

メールでのお申し込みは上記アドレスへ氏名・住所・電話番号・メールアドレスをご連絡下さい。

「常滑の魅力発見講座2022」

この夏の常滑は「国際芸術祭あいち2022」のサテライト会場となり、合わせて開催された「とこなめ芸術祭2022」もあり、散歩道を中心に町中にアートが溢れ、多くの来訪者の熱気で満たされました。芸術祭の終わりの三連休には「第56回常滑焼まつり」が三年ぶりに開催されました。

この芸術祭の盛り上がりに合わせて常滑交際交流協会は「常滑の魅力発見講座2022」を開催しました。

講座は常滑焼の器で「花」「日本茶」「日本酒」の楽しみ方をそれぞれ体験して、常滑の魅力を参加者の皆さんに体感していただくという企画です。

10月8日9日の二日間、常滑陶磁器会館にて三人の講師のご指導のもとアメリカ、中国、ミャンマー、韓国出身の方々も参加し2日間で合計63名の方に楽しんでいただきました。

各講座の内容、参加者・スタッフの感想などをまとめました。



1. 「花遊び」体験講座～野の花、庭の花を楽しむ～ 講師 斉田月紅先生

斉田月紅先生による植物の取り扱いのお話は、日常生活でも基本的で大切なことであり、日々の豊かな暮らしへの導きとなりました。

参加者の草花や木の枝、実などに向ける真剣な眼差しは、作品の完成度に表れました。来日1年のアメリカの青年も、最近ベランダで花を楽しむミャンマーの若い女性も先生に的確に質問していました。

先生の市内施設の生花に惹かれて参加された方ははじめ皆様が素敵な時間を過ごされ、サプライズな先生からの朱泥の花器の贈り物や生けた花などを大切に持ち帰られました。ご自宅でも「花遊び」を楽しんでいただけることでしょう。



2. 「急須で淹れる日本茶の楽しさ」 講師 中根めぐみ先生

中根めぐみ先生に日本茶を美味しく楽しむ時間を丁寧にお話いただき、参加者の皆様ご自身で急須を扱い一番、二番、三番煎じの時間とお茶の味わいを体験していただきました。常滑焼の茶器と西尾市賽水園の煎茶、市内の森田屋謹製の常滑市の花「山茶花」をあしらった和菓子「練り切り」を常滑の練込みの葉っぱの形の銘々皿にのせて楽しく味わっていた



だきました。最後に緑鮮やかな茶殻に武豊の「たまり」を少しかけて召し上がっていただきました。中国からの芸大の留学生の方は急須など茶器に関心を寄せていました。小学2年生の娘さんと参加された方は「久々の常滑焼まつりで茶碗や干支の置物を購入でき、講座でお茶を楽しむ生活を学び、優雅な時間でした。」と感想をお寄せ下さいました。



3. 「常滑焼の器できき酒体験」 講師 澤田研一氏

澤田酒造の澤田研一氏より日本酒の貴重なお話の後に3種（大吟醸、純米酒、生酒）のきき酒体験があり、皆さん日本酒のファンの方々、自信满满に回答されました。全問正解の方には澤田氏より日本酒のプレゼントがありました。酔い良い気分です講座終了となりましたが、惜しくも不正解の方へも澤田氏より日本酒のプレゼントをいただきました。

二日間の講座でスタッフもいろいろなことを学べ、それぞれに常滑の魅力を発見できた講座でした。ご参加の方々からも次の講座のアイデア提案があり、次なる常滑国際交流協会の活動にエールをいただけたように感じ感謝しています。今後もこのような常滑の魅力を発見し楽しむ機会を作りたいと思います。

常滑国際交流協会では、もっと常滑を知って、世界へ発信したい方、楽しく活動したい方など、現在会員募集中です。お待ちしております。



海外見聞録 part5 澤田 治 2016年4月~2018年3月 Aguascalientes, Mexico 滞在

現在、鉄道網の総距離数の世界でのトップは U.S.A.ですが、(日本は 9 位くらいだったか) 隣のメキシコにも鉄道網は広まっています。ただし、ほとんどは貨物路線であって旅客鉄道は私の知る限り地下鉄の MexicoCity と Guadalajara. Chihuahua⇄Los Mochis 間を結ぶチワワ太平洋鉄道、もう一つは旅客とってよいかどうか、Tequila Express という名称の観光(飲酒)列車だと思います。

さて、若干鉄チャンがはいっている筆者は、せっかくのメキシコ生活なので Chepe (チワワ太平洋鉄道) 650km 完全走破を行いました。朝 6:00 出発、終着は 21:00、Primera Class (1 等車) の座席は新幹線のグリーン席よりも広く快適でした。当然食堂車も付いているので、朝食はそこでタコスを中心に。相席になったメキシコ人は 3 世代で旅行中の女性陣。「日本にいる私の孫娘は 4 歳だ。」などと、ペラペラと? (スペイン語はいくつかの定形フレーズしかできないのに) 会話に加わったふりをしていました。今回の旅行の始点は、チワワが標高 2400m、途中で BarrancasDelCobre (銅溪谷) があり、グランドキャニオン以上の規模?といわれる景観です。その景色が見られる Devisadero 駅では

昼食休憩などで、30分程度停車します。当然土産物の露店が並んでいます。

旅の後半は、川に沿った溪谷を快適に降りていきます。飯田線の車窓がこんな感じなのかと（筆者は豊橋から本長篠あたりまでしか乗っていませんが）。終着駅はロスモチスで、標高は100m弱の土地です。駅の近くでは海を見ることができませんが、太平洋に面していて魚料理のレストランがありました。

この列車、1日に1便で曜日により普通列車と急行列車が交互に運行されます。地元の方は普通列車を生活に使用しているので、ほとんど途中区間のみ。観光客は急行列車利用なんですが、さすがに全区间走破は珍しいらしく、車掌に「エッ？」という顔をされました。また、チワワ駅の窓口で切符の支払いにクレジットカードを使用し暗証番号を押そうとしたら、窓口が狭く手が入らない。しかたなく手に数字を書いて駅員に見せたら、代わりに打ってくれて、日本語の数詞で確認してくれました。「どうして知っているの?」「空手をやっているから」などの会話は成り立ちました。

さて雑学をひとつ。Tequila Expressのテキーラは、竜舌蘭（リュウゼツラン）という植物の地下茎を蒸してエキスを抽出した後で蒸留し、アルコール度の強い酒に加工します。グアダハラ近郊のテキーラ村で作られる酒が、テキーラと呼ばれます。Tequila Expressに乗車すると工場見学（もちろん試飲つき）行きも帰りも車内ではサルトの掛け声やマリアッチのような音楽が聞こえてきます。お酒の好きな方はぜひとも参加してください。ただ、アルコール度が高いので口当たりの良さにひかれてお代わりをしすぎると、足腰が立たなくなります。帰国のお土産に、テキーラを宴会で参加者に振舞ったら、二次会をキャンセルする羽目になった会があったようです。



銅溪谷（Divisadero 駅にて）



牽引するディーゼル機関車（同駅にて）



PrimeraClass 客車（同駅にて）



露店の土産物（同駅にて）